

街道を歩く

見付宿 袋井宿から一里半

本陣2、脇本陣1、問屋1、旅籠56。町並み東西11町40間。地名のおこりは、「今の浦」の湾入りした入江(入海付之地)から、また京からの旅人がここではじめて富士山を見た。ことからだともいわれる。ここは国府がおかれ遠江の中心地、姫街道の分岐点、中泉には家康の御殿、後に代官所が置かれた。街道筋には本陣と問屋(銀行前)標柱のみ。

[弥次・喜多]天竜川にさしかかり

”水上は雲より出て鱗ほど
(竜の縁語) なみのさかまく天竜の川”
川を渡って中の町(江戸へも、京へも60里)
”けいせいの道中ならで草鞋がけ
(傾城) 茶屋にとだへぬ中の町客”
(吉原にも中の町)



JR天竜川駅
きんばらめいげん
金原明善生家 明善記念館
天竜川の洪水対策に私財を投じて会社設立。堤防工事明治11年着工、紆余曲折を経て同33年完成。同時に中流域の造林による治水事業も推進。これにより天竜川流域の洪水防止と農業安定に貢献する。



見付宿 本陣、脇本陣跡

東海道遠江・駿河：09見付一天竜川町



天竜川の渡しも時代と共に変わり明治の初期にはこの辺りに有料の池田橋ができた。昭和8年天竜川橋が出来ると廃止された。

池田橋跡碑

行興寺
池田長者屋敷跡。有名な謡曲「熊野」の場所。長者の娘熊野は、遠江守平宗盛に寵愛され京に行ったが、故郷の母の病が気になるが帰国を許されず、花見に行った清水寺の舞台上、**”いかにせん都の春は惜しけれどなれしあづまの花や散るらん”**と詠い、舞って帰国を許される。熊野、母、侍女の墓がある。熊野が愛し育てた藤棚。”熊野の長藤”で知られる。(天然記念物)



遠江国分寺跡
奈良時代天平13年(741)聖武天皇は穀物の不作、疫病の流行を仏教の力を借りて直そうと国ごとに寺(僧寺、尼寺)を造るよう勅令を出した。遠江国では国府のあった磐田の地に建てられた。昭和26年の調査により南北253m、東西180m。金堂、講堂、塔、回廊、中門などのあとが確認された。

国分尼寺
僧寺の北側に、金堂、講堂跡が確認されている。尼寺の中心は僧寺の中心線延長上にある。

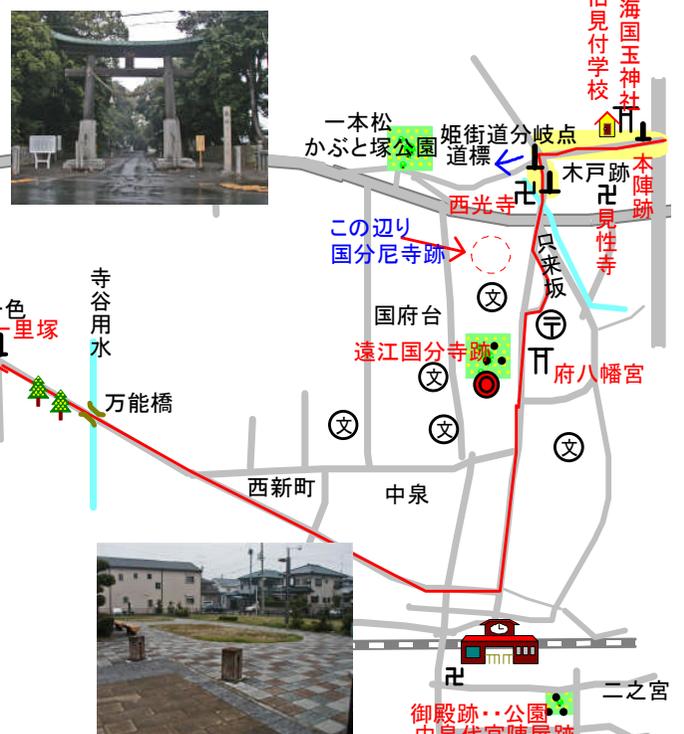
西光寺
表門(薬医門)、中泉御殿にあったものを移築。境内に大樟の老木(推定樹齢500年)

見性寺
境内、貝塚、入江であった今之浦から魚貝類を採っていた。日本左衛門といわれる墓がある。

淡海国玉神社 祭神 大国主命ほか
国司の参拝の便を図り国々の神を祀った遠江国の惣社 本殿は明暦2年(1656)建築。

旧見付学校
日本最古の疑洋風木造校舎。明治8年、基礎石積みの上に二階建て、その上に2層の楼が造られ、その後3階に増築され5階となる。玄関はギリシャ・エンタス式、出入口は男女別々、多くの教室を持つ校舎。石積みは横須賀城の解体、伊豆石も使われているという。

府八幡宮
祭神 仲哀天皇、応神天皇、神功皇后
創建は奈良時代、遠江国守桜井王が国府の守り神として祀る。南北朝時代には足利尊氏の家臣秋鹿氏が地頭、神主兼ね。子孫は家康に仕える。楼門は桃山文化の特色を持った江戸初期の入母屋造り、柿葺き。



家康は浜松に城中に鷹狩りの休息茶屋として御殿を造った。後に幕府の代官所が置かれ、遠江、三河、甲斐の一部を支配した。一時は11万石、201カ村の規模。